

「かつては我々がニュースを所有していた」

WS ジャーナルの主筆が、主流メディアに対する一般の信頼の
死を嘆く

<https://www.infowars.com/posts/we-owned-the-news-wsj-editor-in-chief-laments-death-of-public-trust-in-mainstream-media/>

Janie White

January 20, 2024

ウォールストリート・ジャーナルの主筆 Emma Tucker が、一般大衆が主流メディアの言うことを何でも、疑問にすることなく信じてくれたよき時代を思い出し、そのような時代が終わったことを嘆いた。

エマ・タッカーは金曜日、世界経済フォーラム（WEF）の年次ダボス会議で、代替メディアが盛んになったことで、情報に対する主流商業メディアの独占は、破壊されてしまったと説明した。

「それほど遠くない昔に遡るなら、**我々がニュースを所有していました**。我々は門番であり、また事実をかなり正確に握っていました」と、タッカーは「真実を弁護する」というパネル・ディカッションで言った。

「もしそれが、それは〈ウォールストリート・ジャーナル〉とか、〈ニューヨーク・タイムズ〉に出ていると言えば、それは事実でした。今では人々は、あらゆる種類の異なったソースにニュースを求めることができ、それらが言っていることについて、もっと多くの疑問を発しています。」

「だから、いま我々が、これが起こっていることだとか、これがニュースだとか言っても、もはや効き目がないのです。我々は、我々のやっていることを説明する方がよいと言ってもよい。そうすれば読者は、我々がストーリーのソースをどのように得たかを理解できるでしょう。彼らは我々が、どのように物語を取材するのか、知りたがっているのです」と、彼女は続けた。

「我々はいわば、ボンネットを開けて、新聞がいつもやっていないやり方を見せ、人々に我々のやっていることを説明すべきなのです。我々はニュースを収集するやり方について、もっと開けっぴろげであるべきです」と、タッカーは加えた。

彼女の発言は、「信頼の建て直し」という、今年のダボス会議のテーマをなぞるものであり、これは Covid（コロナ）の計画パンデミックに続いて起こった、主要な施設に対する公的な信頼の崩壊のさなかで行われた。<https://news.gallup.com/poll/508169/historically-low-faith-institutions-continues.aspx>

ヨーロッパ委員会代表である Ursula von der Leyen は、ダボス会議で、「ニセ情報と誤情報は、2024 年の最も深刻な脅威となるもの」だと言い、各政府と諸企業が協力して、「産業規模のニセ情報」と戦うことを呼びかけ、それはこの体制の公的な物語を危険に曝すものだと言った。<https://www.infowars.com/posts/european-commission-president-claims-disinformation-the-worlds-gravest-threat-of-2024/>

【訳者 Greatchain 注】

これは前の「病気 X」についてのダボス会議のニュースに対する、補遺と考えていただきたい。この会議が、クラウド・シュワブやビル・ゲイツのような完全に偏った、徒党をなす者たちだけのものでないことは、前の記事でもわずかに窺えたが、今回の記事では、かなりの良識派、批判派がいることが明らかになった。それはそうであろう。非常識一辺倒で、こんな会議がまとまるはずがない。一方的な見解や主張だけでは、自分たちにとっても不利なのは明らかである。

WS ジャーナルの主筆が、思いもよらなかった発言をし、いわゆる主流メディアは、このまま何もしなければ、死ぬだけだというようなことを言っている。これをダボス会議で聞くとはいわなかった。私はこれと同じことを、何度もわが国の新聞や報道の方々に提言し、そのたびに一蹴されてきた（ように思う）。ウソを通し、人を騙すこともできるが、それでは自他ともに気分が悪いだけだから、なるべくそうしなくてもいいように工夫したらどうか、と言ってきた。

エマ・タッカー氏は、読者から愛想をつかさされ、ソップを向かれるのを一番恐れている。読者の信頼を回復するにはどうするか、という観点で物を言っている。それには読者の気持ちになって正直に言うしかない、ということである。これは何もグローバリストと事を構えるということではない。（それは私のような者がやればよい。）私は日本のジャーナリストから、喧嘩腰のようなものを感じている。これは得策ではない。

ダボス会議のヨーロッパ委員長と言われるアーシュラ・フォン・デア・ライエン女史についても、同じような賢明さを感じる。「産業規模のニセ情報や誤情報」をやめよ、と言っている。全くもってその通りである。それは、Infowarsのような暴露ニュースがあれば、それを下手に隠すな、ということである。たとえばこのような：——

「アメリカ人が、秘密のビル・ゲイツ計画によって、生きたエボラ・ワクチンを与えられている」 <https://www.infowars.com/posts/breaking-americans-being-infected-with-live-ebola-by-secret-bill-gates-project/>

「病院がスタッフに、コロラドで流出した生きたエボラ・ワクチンを注射している」 <https://www.infowars.com/posts/breaking-hospitals-injecting-staff-with-live-ebola-vaccine-that-sheds-in-colorado-warns-doctor/>